

事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日から

平成 30 年 3 月 31 日まで

1 事業の概況

我が国は、人口減少と高齢化が進んでおり、特に地方では若年層が都市部へ流出しており、高齢化に拍車をかけるなど厳しい状況が続いています。

阿佐東地域につきましても、これらの厳しい環境がいつそう深刻化していることに加えて、マイカー世代の高齢者層への拡大が続いており、鉄道輸送が減少の一途を辿っておりますが、当社が運営する阿佐東線が地元住民や四国遍路をはじめとする観光客の移動手段としての役割を果たすため、平成 30 年度も輸送の最大の使命である安全・安定輸送を最優先として事業に取り組んでまいりました。

安全面につきましては、鉄道の安全・安定輸送完遂のため列車の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、車両・設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組みました。保有車両 2 両について法定検査を実施し、検査とあわせて部品等の取替を行い、安全性の向上を図りました。また、JR など社外の研修、講習会、訓練にも積極的に参加し、社員の知識・技能の向上を図っております。さらに地元の中学校と連携し、また、団体ツアー客にも協力いただき、臨時列車を使用して、トンネル火災避難誘導訓練を実施し、事故発生時の社員の対応能力の維持・向上を図りました。

営業面では、阿佐東地域観光ツアー造成に伴い、徳島～室戸～高知間を割引価格で 3 日間乗り降り自由の「四国みぎした 55 フリーきっぷ」の販売を継続し、PR 強化に努めました。利用促進策としましては「お花見列車」「こいのぼり列車」「てるてる坊主列車」「自然体験ツアー」「天の川列車」「阿佐鉄フォトコンテスト」「鉄道の日親子見学会受け入れ」「サンタ列車」「イルミネーション列車」「なごみ列車」など当社のイベントを実施し、また「穴喰伊勢エビ祭り」「商工産業祭」「JR 四国鉄道の日ふれあい祭り」など地域の各種のイベントに参加し、誘客活動やブース出店などを行い、利用促進のための PR とグッズ販売を行いました。また、地域のイベントの機会を捉えて臨時列車を運転し、利用客の利便性と収入の確保に努めました。車内の自動放送に英語を追加し、インバウンド向けのサービス向上を図りました。

さらに、地元の方にマイレール意識を持っていただくため、地元中学校において阿佐東線をテーマとした総合学習の実施、地元中学生の職場体験の受け入

れ、地元小学生の俳句・図画作品の車内および穴喰駅コンコースへの展示、幼稚園児による一日車掌・体験乗車やクリスマスツリー飾りつけを行いました。

「あさてつファンクラブ」の会員確保にも努めました。

費用面では、車両2両の法定検査の実施年度だったため例年と比較し、費用を要しました。平成24年度から取り組んでいる「経営計画（平成29年度更新）」に基づき人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施しました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、定期外人員は56,702(前年比120.0%)、定期人員は4,080人(対前年比104.6%)となり、合計で60,782人(対前年比118.8%)となりました。なお、JR四国など四国内の鉄道会社と取組むフリータイプの切符「ALLSHIKOKU Rail Pass」と「バースデー切符」につきましては、利用実態と収益などを鑑みて集計方法を当期より変更いたしました。

旅客運輸収入につきましては前期並みとなりました。

損益につきましては、営業収益が9,017千円(対前年比99.6%)、営業費用が116,391千円(対前年比164.1%)、営業外収益が7,559千円(対前年比61.6%)、営業外費用が1,427千円(対前年比105.4%)となり、当期経常損失は101,242千円(対前年比198.6%)となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純利益は1,077千円となりました。

これらの実績を分析しますと、インバウンド用の「ALLSHIKOKU Rail Pass」の発売枚数の増加率が当期はやや落ち着きを見せたものの、「バースデー切符」へ新たに参画など他の企画乗車券の販売枚数が増加したこともあり、旅客運輸収入につきましては、前期並みを確保しました。営業費用は車両2両の法定検査を実施したため、前期より大幅に増加し、当期経常損失は大きく増加しました。

今後も阿佐東地区の少子・高齢化、人口減少、マイカー世代の高齢者層への拡大といった当社を取り巻く環境は今以上に厳しさを増していくと考えられますが、地元住民と四国遍路などの観光客の大切な移動手段として活用されるよう鉄道輸送の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んでまいります。

なお、DMV（デュアル・モード・ビークル）につきましては、阿佐東線存続の切り札として、また、観光の起爆剤として地方創生に寄与する乗り物として大いに期待されております。2020年の「東京オリンピック・パラリンピックまでの運行開始」に向けて、いよいよ車両製作や調査設計にも取り掛かりました。また、運転士の新規採用をはじめ、会社の人員補強も進めたほか、7月からDMV車両を借用し、「DMVわくわくイベント」を実施し、阿佐東地

域を中心に各種イベントで試乗会や展示等を行い、導入に向けた機運の醸成を図りました。今後も国や自治体をはじめとする関係機関との連携をさらに強化し、示したスケジュールに則ってしっかり取り組んでまいります。